

編

集

後

記

◇創刊以来、本機関誌の中心的存在として活躍されてきた天野先生が昨秋、大阪大学へ転出し、あとを引き継ぐかたちで編集を担当することとなった。確かな計画のないままに編集を進めたので、どのようなものが出来上がるか常に不安であったが、幸いにも第三号までの整った形態があり、それを踏襲することで責めを塞ぐことにした。今号が第五号以降への橋渡しの役割を担えればと、密かに願っている。

◇現二年生はコース制導入後初めての卒業生で、本誌を飾る卒業研究佳作にも、来年は研究論文以外の創作・評論等の著述が掲載されることであろう。文芸の領域での女性の活躍がめざましい昨今、学生諸君の奮闘も大いに俟たれるところである。

◇本会も五年目を迎え、転換期に直面しているようだ。それは会員の変動に象徴されている。本誌の題字の揮毫をいただいた塚田先生が退職され、会長の後任には今号に稿を寄せていただいている中山先生が就任。そして新会員として矢羽先生、周東先生のお二方を迎えた。現役の学生会員も二百三十名を超える活況を呈してきた。会員数の増加が質的向上につながることを期待している。

◇末筆ではあるが、新社会人として忙しいこの時期に稿を寄せてくれた五名の卒業生と、編集にあたって尽力いただいた方々に厚く御礼申し上げる。

(5・27 中西)

学海

第四号

昭和六十三年三月三十一日発行

発行者

上田市下之郷六二〇
上田女子短期大学

国語国文学会

会長 塚田 清策

〇二六八(三八)二三五二

印刷所

上田市間屋町二三七一五
田辺印刷株式会社
〇二六八(三二)一四九二

題字・塚田 清策